販売用資料

2026年11月



りそなゴールドファンド

（為替ヘッジなし）/（為替ヘッジあり）

追加型投信/内外/その他資産（商品）

設定来の運用状況と金市場について

当レポートでお伝えしたいポイント

■ **設定来の運用状況**

■ **足元の金価格の主な変動要因**

- 2026年初に過去最高値圏まで上昇した金価格は足元では調整局面。
- 金価格の下落は、米国長期金利の上昇が大きく影響。

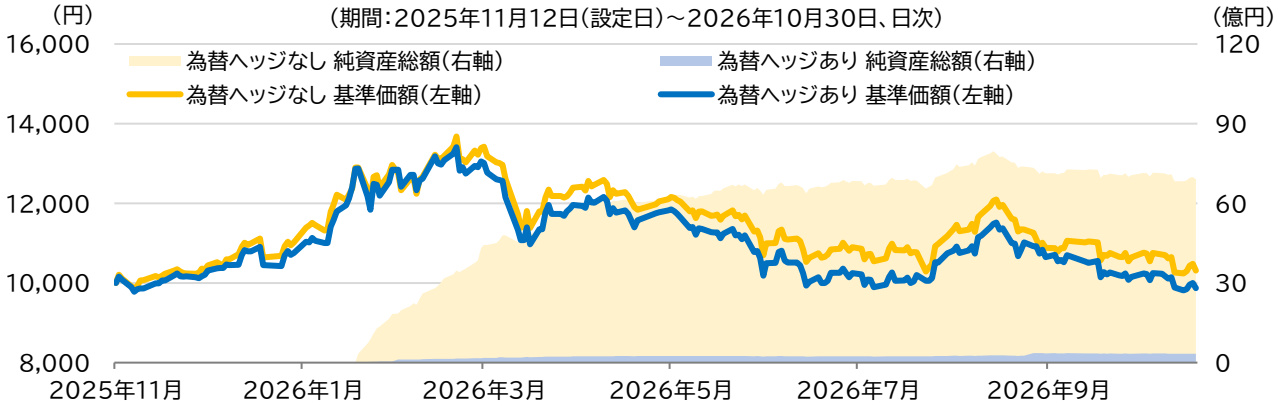
■ **今後の金価格の見通し**

- 米国の利上げ観測が金価格の下押し要因となるも、中央銀行による継続的な需要は金市場を需給面から下支えする要因として期待される。

■ **（ご参考）長期的に見た金価格の推移**

- 足元の金価格は長期的な上昇トレンドの中での調整局面と考えられる。

＜各ファンドの設定来の基準価額と純資産総額の推移＞



＜各ファンドの2026年10月末の状況＞

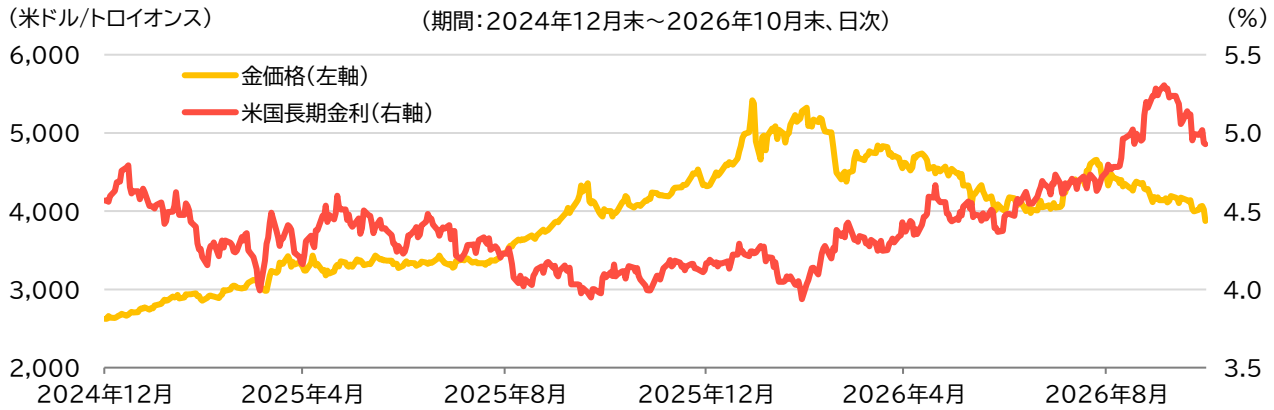
ファンド	基準価額	純資産総額	設定来騰落率
りそなゴールドファンド（為替ヘッジなし）	10,314円	69.0億円	3.1%
りそなゴールドファンド（為替ヘッジあり）	9,867円	3.3億円	-1.3%

※ 設定来の基準価額の騰落率は設定時（2025年11月12日）の基準価額（10,000円）を起点として算出しています。
※ 基準価額（1万口当たり）は、運用管理費用（信託報酬）控除後のものです。騰落率は、各ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いて算出しています。
※ 上記はあくまで過去の実績であり、将来の投資成果を示唆・保証するものではありません。

足元の金価格の主な変動要因

- 金価格は2025年初以降、各国の中央銀行による継続的な金の購入や地政学リスクの高まりなどを背景に上昇し、2026年初には過去最高値圏まで上昇しました。しかしながら、足元では米国の利上げ観測の高まりなどを背景とした金利上昇や米ドル高の進行、金価格高値圏での利益確定売りなどを受けて調整局面となっています。
- 一般的に、金価格は金利とおおむね逆相関の関係が見られます。直近では、2026年8月以降、ジャクソンホール会議におけるFRB(米連邦準備制度理事会)議長の発言や、FOMC(米連邦公開市場委員会)での政策金利見通しの引き上げなどを背景に米国での利上げ観測が高まりました。その結果、米国長期金利が上昇し、金価格は下落しました。

＜金価格と米国長期金利の推移＞



出所:ブルームバーグのデータをもとにりそなアセットマネジメントが作成。
※ 金価格は米ドル建金スポットレート、米国長期金利は米国10年国債利回りを指します。
※ 上記はファンドの運用実績を示すものではなく、将来の投資成果を示唆・保証するものではありません。

POINT!

足元の金価格の下落は、
米国長期金利の上昇が大きく影響しているものと思われます。

(ご参考)金価格の主な変動要因

金価格の主な変動要因として、以下の4点が挙げられます。

① 金利:利息を生まない金は、金利が上昇するほど相対的に魅力度が低下し、価格が下落しやすい。
② 物価:インフレ(物価上昇)時には「価値の保存手段」として金の需要が高まり、価格が上昇しやすい。
③ 米ドル:金は主に米ドル建で取引されるため、米ドル高になると価格が下落しやすい。
④ 地政学リスク:紛争や政治不安が高まると金は安全資産として買われやすく、価格が上昇しやすい。

① 金利	② 物価	③ 米ドル	④ 地政学リスク	金価格
↓ 低下	↑ 上昇	↓ 下落	↑ 上昇	↑ 上昇
↑ 上昇	↓ 下落	↑ 上昇	↓ 低下	↓ 下落

※ 上記各変動要因による金価格への影響はあくまでイメージであり、必ずしもこのように影響を与えるとは限りません。

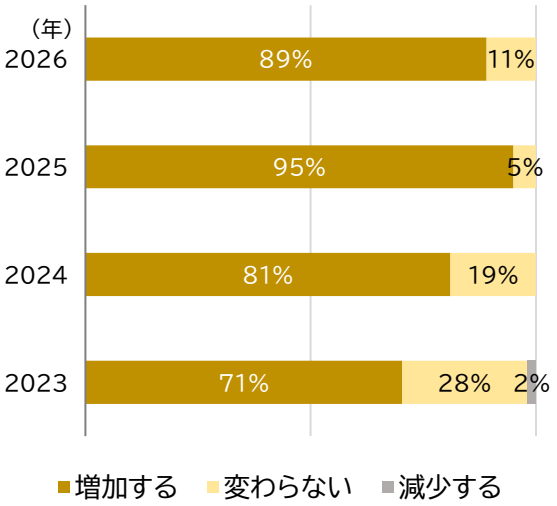
今後の金価格の見通し

- 各国の中央銀行による金の購入は継続して行われており、金市場を支える重要な需要の一つとなっています。中央銀行による金の保有は、外貨準備の分散や金融・地政学リスクへの対応などを目的としており、短期的な価格変動に左右されにくい需要である点が特徴です。
- ワールド ゴールド カウンシルが6月に公表した調査結果では、世界の中央銀行における金の保有量について回答した中央銀行全体の89%が「今後12ヵ月で増加する」と予想しました。また、自国の中央銀行における金の保有量についても、45%が「今後12ヵ月で増加する」と予想しており、各国の中央銀行が金を重要な準備資産として位置付けていることがうかがえます。
- 足元では、米国経済が堅調に拡大する中でインフレは高止まりを続けているため、FRBが追加利上げを実施するとの見方は強く残っており、金価格の下押し要因となっていますが、中央銀行による継続的な需要は金市場を需給面から下支えする要因として期待されます。今後の金価格動向を注視するうえでは、金融政策に加え、各国の中央銀行の金の保有姿勢にも注目が集まると考えられます。

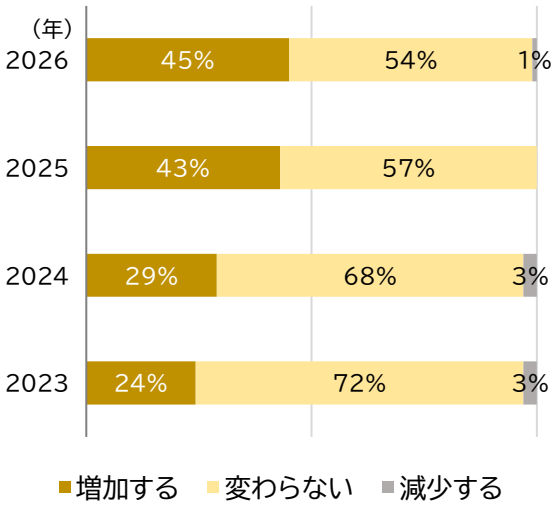
※ 作成時点の判断を示したものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

＜各国の中央銀行における金の保有量についての調査結果＞

Q 今後12ヵ月で、世界の中央銀行における金の保有量はどのように変化すると予想しますか？



Q 今後12ヵ月で、自国の中央銀行における金の保有量はどのように変化すると予想しますか？



出所：ワールド ゴールド カウンシル「Central Bank Gold Reserves Survey June 2026」をもとにりそなアセットマネジメントが作成。
※ 回答は2026年2月5日～5月19日に実施した各国の中央銀行への調査によるもの。
※ 四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

中央銀行が金を保有する理由の例

- 外貨準備の分散
- 信用リスクへの備え
- 地政学リスクへの備え
- 資産価値の保全

POINT!

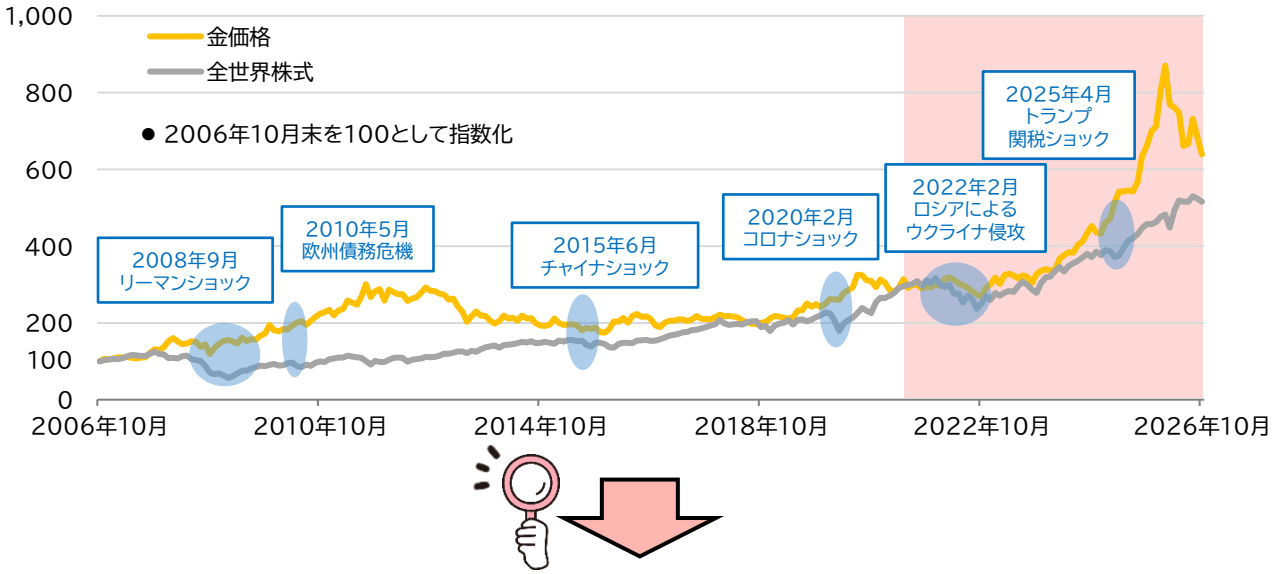
中央銀行による継続的な金の購入は、金市場を支える構造的かつ長期的な需要として注目されています。

（ご参考）長期的に見た金価格の推移

- 金は株式や債券と異なり、特定の国や企業の信用に依存しない実物資産であるため、多様な市場環境の変化の中でも、世界中で保有され続けています。また、金価格は短期的には大きく変動することがありますが、長期的に見ると上昇基調を維持しており、金融危機や景気後退局面、インフレ局面などさまざまな市場環境を経ながら価値が見直されてきました。
- 足元の金価格は調整局面にあるものの、長期的な視点で見れば上昇トレンドの中で生じている価格変動の一局面と考えられます。とくに2025年は大幅な上昇となったことから、足元の下落にはその反動による調整の側面もあると考えられます。

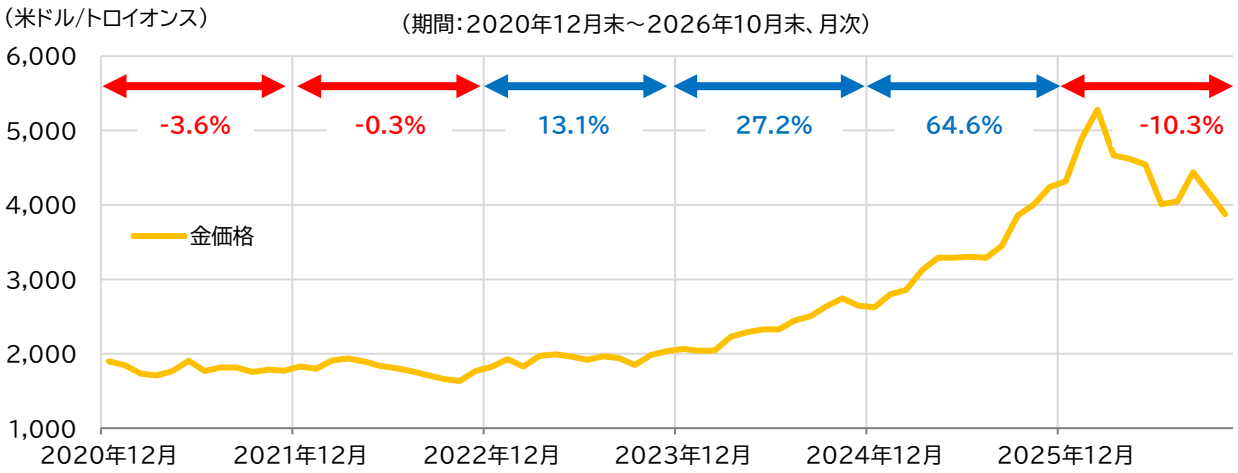
＜金と全世界株式の価格の推移＞

（期間：2006年10月末～2026年10月末、月次）



＜過去約5年間の金価格の推移および年間騰落率＞

（期間：2020年12月末～2026年10月末、月次）



出所：ブルームバーグのデータをもとにりそなアセットマネジメントが作成。

※ 金価格は米ドル建金スポットレート、全世界株式はMSCI オール・カントリー・ワールド・インデックス（配当込み、米ドルベース）を指します。同指数は、MSCI Inc.が開発した、日本を含む世界の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものであり、指数に関する著作権、知的財産権その他の権利はMSCI Inc.に帰属します。

※ 金価格の2026年の年間騰落率：2025年12月末～2026年10月末。

※ 上記はファンドの運用実績を示すものではなく、将来の投資成果を示唆・保証するものではありません。

足元の金価格は、長期的な上昇トレンドの中での調整局面と考えられます。

販売会社（お申込み・投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください。）

商号（50音順）	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○	○	○	○
株式会社関西みらい銀行	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第7号	○		○	
株式会社埼玉りそな銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第593号	○		○	
株式会社みなと銀行	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第22号	○		○	
株式会社りそな銀行	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第3号	○	○	○	

＜当資料についての留意事項＞

当資料は、りそなアセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料です。お申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）および「目論見書補完書面」等を一体として販売会社よりお渡ししますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

- ファンドのリスクおよび費用：
  投資信託をご購入いただく際には、元本損失が生じるおそれを含む各種リスクが存在するほか、所定の手数料等その他の費用がかかります。これらの手数料やリスクの詳細につきましては、二次元バーコードのリンク先にてご確認いただけます。なお、二次元バーコードが読み取れない場合は、投資信託説明書（交付目論見書）を販売会社よりお渡しします。
- 当資料は、当社が信頼できると判断した情報をもとに作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 運用実績および市場環境の分析等の記載内容は過去の実績および将来の予測であり、将来の運用成果および市場環境等を示唆・保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により、運用方針が変更される場合があります。
- 当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権、その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の記載内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

リスクおよび費用のほか、ファンドの詳細は当社HPをご覧ください。

為替ヘッジなし

https://www.resona-am.co.jp/fund/120070/

為替ヘッジあり

https://www.resona-am.co.jp/fund/120071/

りそなアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第2858号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会
ファンドの運用の指図を行います。
お問い合わせ：0120-223351（営業日の午前9時～午後5時）
ホームページ：https://www.resona-am.co.jp/